

原 著

保育士の「健康及び安全」への取り組み状況への認識に関する研究

矢野 智恵^{1*}, 片岡亜沙美², 森澤 徹男³,
小島 一久⁴, 杉原 徹⁵, 山崎美恵子⁶

要約：本研究は保育所保育指針の改定後、保育士の「健康及び安全」への取り組み状況への認識を明らかにするため、A県内の130保育所の保育士1,763名を対象に、層別任意抽出によるアンケート調査を行った（回収率46.2%）。その結果、保育士は「健康及び安全」への取り組みができていると認識している傾向にあった。“子どもの健康状態の把握と発病時の保護者への連絡”“保育所における感染予防・保健環境などの維持向上”など、「健康及び安全」の中でも改定前にも示されていた従前の取り組みはよくできていると認識していたが、今回の改定の特徴である食育の推進や保護者支援、健康の保持増進に関する保育の計画及び評価など保育の質を高めるしくみについてはまだまだ課題として取り組んでいく必要があること、また保育所において看護師、栄養士などの専門職の存在が保育士の実践力を高め、保育の質を向上させる可能性が高いことが示唆された。今後、「健康及び安全」への取り組みについては、看護師などの専門職を常駐させ保育計画に取り組むことや、保育所内で組織的に取り組んでいくことがのぞまれる。

キーワード：保育士，保育所保育指針，健康及び安全，専門職

I. はじめに

「保育所保育指針」が平成20年3月に改定され、翌年4月1日より施行された。それにより保育所の役割や機能が明確になり、保育士の専門性の向上、養護と教育を一体的に行う保育の特性、保育課程の編成や自己評価による保育の改善等の視点を踏まえ、保育所における保育の質の向上を目指すことが従前より強く求められることとなった。改定保育所保育指針では第5章「健康及び安全」のための体制充実が盛り込まれ、子どもの健康・安全の確保が子どもの保育所での生活の基本であ

るとの考えのもとに、保育所が施設長の責任のもとに取り組むべき事項も明記されるなど従前の保育士の役割認識に加えて、保育所として組織的・計画的に取り組むことの必要性が求められるようになった¹⁾。

筆者らの先行研究においても保育所看護職者は保育士に、保育士は保育所看護職者に遠慮して業務を遂行していたことや、両者の専門職としての意識不足や自信のなさから保育所における健康・安全への支援上の課題が示唆された²⁾が、保育士の「健康及び安全」への取り組みに関する研究は

^{1*}高知学園短期大学 看護学科 Email: cyano@kochi-gc.ac.jp

^{2,4,6}高知学園短期大学 専攻科地域看護学専攻

Email: akataoka@kochi-gc.ac.jp, ojima@kochi-gc.ac.jp, myamasaki@kochi-gc.ac.jp

³高知学園短期大学 看護学科・専攻科地域看護学専攻 非常勤講師

⁵元高知学園短期大学 幼児保育学科

ほとんどされていないのが現状である。そこで、保育所保育指針の改定後の、保育士の「健康及び安全」への取り組み状況の認識を明らかにすることを目的とし本研究を行った。

II. 用語の定義

「健康及び安全」への取り組み状況への認識：保育所保育指針における第5章「健康及び安全」およびそれに関連する事項への取り組み状況に関する保育士自身の認識

III. 研究方法

1. 研究対象：A県下の保育所（公立・私立を含む）で勤務する保育士1763名
2. 調査期間：平成22年10月中旬～10月末
3. 調査内容

保育所保育指針から、第5章の中で求められている実践内容およびそれに関連する事項の内容を抽出し、さらに平成21年度に筆者らが実施した基礎研究のデータをもとに、保育士の「健康及び安全」およびそれに関連する事項（以下、「健康及び安全」とする）への取り組み状況を変数とした設問項目を用いて質問票を作成した。10項目の独立変数（設置者、地区、性別、経験年数、職位、担当クラス、資格、保育士免許取得方法、看護師の配置の有無、栄養士の配置の有無）と、「健康及び安全」への取り組み19設問を従属変数とし、「健康及び安全」への取り組み状況の認識について5段階尺度（1大変悪い、2悪い、3普通、4良い、5大変良い）の回答を求めた。

4. 調査方法

層別任意抽出によるアンケート調査を行った。A県を東部・中部・西部の3地区に分割し、各地区の保育所数をもとに調査対象となる保育所数を3地区に比例配分し、地区内の保育所を乱数表を用いて130保育所抽出した。調査用紙は各保育所を通じて配布し各保育所に勤務する保育士1763名

に留置郵送法で実施した。

5. 分析方法

「健康及び安全」への取り組み状況の回答は「大変悪い」「悪い」「普通」「良い」「大変良い」における回答者割合（%）をもとめた。さらに、保育士の背景が回答に与える影響をみるため、分割表による χ^2 検定を行った。

IV. 倫理的配慮

調査依頼書にて、本研究の目的と内容、回答への自由意志、記入者ならびに保育所の個別情報を公開しないことを説明し、研究成果は回答者が特定されない形で学会や誌上発表で公表することを説明し、質問紙の返送をもって同意を得たものとした。なお、本研究は高知学園短期大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号第13号 H22.10.8）を得て実施した。

V. 結果

1. 質問紙の回収

A県内130保育所の保育士1763人に質問紙を送付し、815人から回答を得た。回収率は46.2%、そのうち有効回答は789人であった。

2. 対象者の概要

結果は表1のとおりである。

3. 保育士の「健康及び安全」への取り組み状況への認識

保育士の「健康及び安全」への取り組み状況の回答割合をみると、「普通」「良い」「大変良い」と回答した保育士が非常に多く、保育士は「健康及び安全」への取り組みが出来ていると認識している傾向にあることが明らかとなった（表2）。

「大変良い」と回答した保育士の割合が高かった取り組み5項目は順に【保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態等に応じて保護者に連絡している（設問7）】69.9%、【保護者からの情報とともに登所時及び保育中を通じて

て子どもの状態等を観察し、なんらかの疾病が疑われる状態や傷害が認められた場合には保護者に連絡している（設問2）】59.8%、【体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど一人ひとりの子どもの心身の状態等に応じ嘱託医、かかりつけ医等の指示や協力の下に適切に対応している（設問16）】は49.4%、【感染症やその他の疾病の発生予防に努めている（設問8）】と【子ども及び職員が、手洗い等により清潔を保つようにするとともに、施設内外の保健的環境の維持および向上に努めている（設問10）】は43.3%であった。

一方、「大変良い」と回答した保育士の割合が低かった取り組み5項目は順に【保育内容「健康」について理解し、指導計画を立案・実践することができている（設問18）】15.2%、【保護者が子どもの健康に関心をもてるような働きかけをしている（設問19）】18.5%、【子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように保育環境に配慮

している（設問15）】20.8%、【乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置付けるとともにその評価及び改善に努めている（設問14）】21.7%、【自分自身の身体的・精神的な健康の保持・増進に努めている（設問17）】23.6%であった。

4. 保育士の背景の違いによる「健康及び安全」への取り組み状況への認識の違い

保育士の背景が「健康及び安全」への取り組み状況に与える影響を見るために、保育士の背景別に各設問項目について χ^2 検定を行った（表3）。その結果、〈栄養士配置の有無〉では殆どの取り組み状況への認識において有意差があった。また、〈地区別〉と〈保育士資格〉では有意差はなく、その他の保育士の背景では少数の項目で有意差があった。

表1. 対象者の概要

n=789(%)

設置者	公立		私立		無回答					
		293 (37.1)		478(60.6)		18(2.3)				
地区	西部		東部		中部		無回答			
	99(12.4)		62(7.9)		617(78.2)		11(1.4)			
性別	男性		女性		無回答					
	21(2.7)		761(96.5)		7(0.8)					
経験年数	0.1～10年	11～20年	21～30年	31～56年	無回答					
	316(40.1)	177(22.4)	146(18.5)	107(13.6)	43(5.4)					
職位	施設長	主任保育士	保育士	加配保育士	無回答					
	62(7.9)	61(7.7)	585(74.1)	71(9)	10(1.3)					
担当クラス	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児	フリー	その他	無回答	
	65(8.2)	57(7.2)	74(9.4)	134(17.0)	97(12.3)	82(10.4)	64(8.1)	147(18.6)	69(8.7)	
資格	保育士免許のみ		保育士・幼稚園教諭免許		無回答					
	76(9.6)		691(87.6)		22(2.8)					
資格取得方法	専門学校		短期大学		4年制大学		国家試験		無回答	
	140(17.7)		558(70.7)		12(1.5)		49(6.2)		30(3.8)	
看護師配置の有無	有		無		無回答					
	195(24.7)		564(71.5)		30(3.8)					
栄養士配置の有無	有		無		無回答					
	264(33.5)		462(58.6)		63(7.9)					

※小数第2位を四捨五入

表2. 保育士の「健康及び安全」への取り組み状況への認識

n = 789 (%)

設問		無回答	大変悪い	悪い	普通	良い	大変良い	
子どもの健康状態及び発達状態の把握	1	子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態ならびに発育及び発達状態について、定期的、継続的に、また、必要に応じて随時、把握している。	1 (0.1)	1 (0.1)	0 (0)	229 (29)	303 (38.4)	255 (32.3)
	2	保護者からの情報とともに、登所時及び保育中を通じて子どもの状態を観察し、なんらかの疾病が疑われる状態や傷害が認められた場合には、保護者に連絡している。	3 (0.3)	0 (0)	2 (0.2)	113 (14.3)	199 (25.2)	472 (59.8)
	3	子どもの心身の状態等を観察し、不適切な養育の兆候を観察している。	3 (0.3)	0 (0)	1 (0.1)	238 (30.1)	281 (35.6)	266 (33.7)
健康増進	4	子どもの健康に関する保健計画に基づいて、そのねらいや内容を明確にしながら、一人一人の子どもの健康の保持及び増進に努めている。	5 (0.6)	0 (0)	4 (0.5)	321 (40.6)	257 (32.5)	202 (25.6)
	5	嘱託医による定期的な健康診断の結果を記録し、保育に活用している。	10 (1.2)	2 (0.2)	3 (0.3)	271 (34.3)	194 (24.5)	309 (39.1)
	6	嘱託医による定期的な健康診断の結果を保護者に連絡し、保護者が子どもの状態を理解し、日常生活に活用できるようにしている。	11 (1.3)	2 (0.2)	2 (0.2)	232 (29.4)	224 (28.3)	318 (40.3)
疾病等への対応	7	保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態等に応じて、保護者に連絡している。	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	81 (10.2)	153 (19.3)	552 (69.9)
	8	感染症やその他の疾病の発生予防に努めている。	0 (0)	1 (0.1)	3 (0.3)	166 (21.0)	277 (35.1)	342 (43.3)
環境及び衛生管理	9	施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めている。	1 (0.1)	1 (0.1)	8 (1.0)	264 (33.5)	284 (36.0)	231 (29.3)
	10	子ども及び職員が、手洗い等により清潔を保つようにするとともに、施設内外の保健的環境の維持及び向上に努めている。	0 (0)	1 (0.1)	1 (0.1)	168 (21.3)	277 (35.1)	342 (43.3)
事故防止及び安全対策	11	保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ保育所内外の安全点検に努めている。	0 (0)	1 (0.1)	2 (0.3)	185 (23.4)	303 (38.4)	297 (37.6)
	12	災害や事故の発生に備え、危険個所の点検や避難訓練を実施するとともに外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備えて必要な対応を図っている。	1 (0.1)	3 (0.4)	12 (1.5)	224 (28.4)	257 (32.6)	292 (37.0)
食育の基本	13	子どもが生活と遊びの中で、意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもに成長していくように取り組んでいる。	0 (0)	1 (0.1)	2 (0.2)	214 (27.1)	338 (42.8)	234 (29.7)
食育の計画	14	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置付けるとともに、その評価及び改善に努めている。	4 (0.5)	1 (0.1)	11 (1.4)	344 (43.6)	258 (33.7)	171 (21.7)
食育のための環境	15	子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように保育環境に配慮している。	4 (0.5)	1 (0.1)	7 (0.9)	326 (41.3)	287 (36.3)	164 (20.8)
特別な配慮の子どもへの対応	16	体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、一人一人の子どもの心身の状態等に応じ、嘱託医、かかりつけ医等の指示や協力の下に適切に対応している。	7 (0.9)	1 (0.1)	1 (0.1)	174 (22)	216 (27.3)	390 (49.4)
自分自身の健康管理	17	自分自身の身体的・精神的な健康の保持・増進に努めている。	3 (0.4)	2 (0.3)	7 (0.9)	339 (43)	252 (31.9)	186 (23.6)
保育内容「健康」の計画	18	保育内容「健康」について理解し、指導計画を立案・実践することができている。	4 (0.5)	1 (0.1)	9 (1.1)	380 (48.2)	275 (34.9)	120 (15.2)
保護者への働きかけ	19	保護者が子どもの健康に関心をもてるような働きかけをしている。	2 (0.3)	0 (0)	9 (1.1)	341 (43.2)	291 (36.9)	146 (18.5)

※小数第2位を四捨五入

表3. 保育士の背景と「健康及び安全」への取り組み状況への認識の違い

「健康及び安全」への取り組み		保育士の背景									
		設置者別分類	地区別	性別	経験年数	職位	担当クラス	資格	保育士資格	看護師配置	栄養士配置
1	子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態ならびに発育及び発達状態について、定期的、継続的に、また、必要に応じて随時、把握している。						p<0.05			p<0.05	p<0.001
2	保護者からの情報とともに登所時及び保育中を通じて子どもの状態を観察し、なんらかの疾病が疑われる状態や傷害が認められた場合には、保護者に連絡している。			p<0.05							p<0.05
3	子どもの心身の状態等を観察し、不適切な養育の兆候を観察している。										p<0.01
4	子どもの健康に関する保健計画に基づいて、そのねらいや内容を明確にししながら、一人一人の子どもの健康の保持及び増進に努めている。										p<0.001
5	嘱託医による定期的な健康診断の結果を記録し、保育に活用している。										
6	嘱託医による定期的な健康診断の結果を保護者に連絡し、保護者が子どもの状態を理解し、日常生活に活用できるようにしている。										p<0.001
7	保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態等に応じて、保護者に連絡している。	p<0.05									
8	感染症やその他の疾病の発生予防に努めている。										p<0.01
9	施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めている。	p<0.05					p<0.05				p<0.05
10	子ども及び職員が、手洗い等により清潔を保つようにするとともに、施設内外の保健的環境の維持及び向上に努めている。										p<0.01
11	保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ保育所内外の安全点検に努めている。									p<0.01	
12	災害や事故の発生に備え、危険箇所の点検や避難訓練を実施するとともに外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備えて必要な対応を図っている。				p<0.05	p<0.05					p<0.01
13	子どもが生活と遊びの中で、意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもに成長していくように取り組んでいる。										
14	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置付けるとともに、その評価及び改善に努めている。						p<0.05			p<0.05	p<0.001
15	子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように保育環境に配慮している。					p<0.01	p<0.01				
16	体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、一人一人の子どもの心身の状態等に応じ、嘱託医、かかりつけ医等の指示や協力の下に適切に対応している。					p<0.05					
17	自分自身の身体的・精神的な健康の保持・増進に努めている。	p<0.05									p<0.01
18	保育内容「健康」について理解し、指導計画を立案・実践することができている。	p<0.01								p<0.01	p<0.01
19	保護者が子どもの健康に関心をもてるような働きかけをしている。										p<0.01

以下、有意差のあった保育士の背景別に、「健康及び安全」への取り組み状況への認識の結果を述べる。なお、V-3・表2に示すように、多くの保育士は「健康及び安全」への取り組みが出来ていると認識している傾向にあったことから、「普通」「良い」「大変良い」の結果について述べる。また、各表の設問番号は、表3の設問内容を意味する。

1) 設置者別 (表4)

設置者別では、【保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態等に応じて保護者に連絡している (設問7)】【施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めている (設問9)】【自分自身の身体的・精神的な健康の保持・増進に努めている (設問17)】【保育内容「健康」について理解し、指導計画を立案・実践することができている (設問18)】の4項目において公立より私立の保育士の方が「大変良い」と回答した保育士の割合が高かった。

表4. 設置者別

		公立	私立
設問7	普通	32 11%	46 10%
	良い	72 25%	81 17%
	大変良い	187 64%	350 73%
設問9	普通	115 40%	146 31%
	良い	101 35%	179 38%
	大変良い	72 25%	148 31%
設問17	普通	143 50%	192 41%
	良い	84 29%	162 34%
	大変良い	60 21%	118 25%
設問18	普通	160 56%	214 45%
	良い	92 32%	176 37%
	大変良い	32 11%	83 18%

2) 性別 (表5)

性別では【保護者からの情報とともに、登所時及び保育中を通じて子どもの状態等を観察し、なんらかの疾病が疑われる状態や傷害が認められた場合には保護者に連絡している (設問2)】において男性より女性の方が大変よいと回答した保育士の割合が高かった。

表5. 性別

		男性	女性
設問2	普通	4 19%	107 14%
	良い	10 48%	188 25%
	大変良い	7 33%	461 61%

3) 経験年数別 (表6)

経験年数では、【災害や事故の発生に備え、危険箇所の点検や避難訓練を実施するとともに外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備えて必要な対応を図っている (設問12)】は経験年数が多い方より経験年数が少ない方 (0.1~10年、11年~20年) が「大変良い」と回答した保育士の割合が高い傾向にあった。

表6. 経験年数別

		0.1~10年	11~20年	21~30年	31年~56年
設問12	普通	92 29%	54 32%	43 30%	20 19%
	良い	95 30%	46 27%	54 38%	48 45%
	大変良い	127 40%	70 41%	45 32%	38 36%

4) 職位別 (表7)

職位別では、【災害や事故の発生に備え、危険箇所の点検や避難訓練を実施するとともに外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備えて必要な対応を図っている (設問12)】においては加配保育士が「大変良い」と回答した保育士の割合が高かった。【子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように保育環境に配慮している (設問15)】では、施設長、

主任保育士、加配保育士においては「良い」と回答したものの割合が高かったが、保育士においては「普通」と回答した保育士の割合が一番高かった。【体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど一人一人の子どもの心身の状態等に応じ、嘱託医、かかりつけ医等の指示や協力の下に適切に対応している（設問16）】はどの職位の保育士も「大変良い」と回答したものの割合が高かったが、特に施設長は66%であった。

表7. 職位別

		施設長	主任保育士	保育士	加配保育士
設問12	普通	13 21%	13 22%	174 30%	19 27%
	良い	28 46%	25 42%	188 33%	15 21%
	大変良い	20 33%	22 37%	211 37%	36 51%
設問15	普通	17 28%	20 33%	267 46%	19 27%
	良い	27 44%	26 43%	197 34%	32 46%
	大変良い	17 28%	14 23%	113 20%	19 27%
設問16	普通	7 11%	17 28%	137 24%	9 13%
	良い	14 23%	17 28%	160 28%	24 34%
	大変良い	40 66%	27 44%	280 49%	38 54%

5) 担当クラス別（表8）

担当クラス別では、【子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態ならびに発育及び発達状態について定期的、継続的に、また必要に応じて随時、把握している（設問1）】では2歳児クラスにおいて「普通」と回答した保育士の割合が他のクラスと比べて高く、「大変良い」が一番低い結果であった。【乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに、その評価及び改善に努めている（設問14）】と【子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように保育環境に配慮している（設問15）】では全体的に「普通」と回答したものの割合が高かった。

6) 資格別（表9）

資格別では、【施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めている（設問9）】は保育士資格と幼稚園教諭資格の両方の資格を有している保育士のほうが「大変良い」と回答したものの割合が高かった。

表8. 担当クラス別

		5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児	フリー	その他
設問1	普通	14 22%	13 23%	21 28%	58 43%	21 22%	22 27%	15 24%	50 34%
	良い	26 40%	22 39%	26 35%	46 34%	45 46%	35 43%	27 43%	47 32%
	大変良い	25 38%	22 39%	27 36%	30 22%	31 32%	25 30%	21 33%	49 34%
設問14	普通	24 38%	24 43%	24 33%	72 55%	47 49%	34 43%	23 36%	70 49%
	良い	26 41%	19 34%	33 46%	32 25%	34 35%	22 28%	28 44%	40 28%
	大変良い	13 21%	13 23%	15 21%	26 20%	15 16%	24 30%	13 20%	34 24%
設問15	普通	20 32%	22 39%	24 33%	66 50%	52 54%	46 56%	24 38%	53 37%
	良い	26 41%	23 40%	36 50%	46 35%	31 32%	20 24%	25 40%	46 32%
	大変良い	17 27%	12 21%	12 17%	21 16%	13 14%	16 20%	14 22%	44 31%

表9. 資格別

		保育士資格	保育士資格と幼稚園教諭
設問9	普通	36 48%	220 32%
	良い	23 31%	254 37%
	大変良い	16 21%	209 31%

7) 看護師配置の有無別 (表10)

看護師の配置の有無別では、【子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態ならびに発育及び発達状態について定期的、継続的にまた必要に応じて随時把握している (設問1)】【保育中の事故防止のために、子どもの心身の状態等を踏まえつつ保育所内外の安全点検に努めている (設問11)】【乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに、その評価及び改善に努めている (設問14)】【保育内容「健康」について理解し、指導計画を立案・実践することができている (設問18)】の4項目において看護師の配置がある方が「大変よい」と回答したものの割合が高かった。

表10. 看護師の配置の有無別

		看護師の配置あり	看護師の配置無し
設問1	普通	62 32%	152 27%
	良い	59 30%	236 42%
	大変良い	73 38%	175 31%
設問11	普通	58 30%	121 22%
	良い	57 29%	234 42%
	大変良い	79 41%	206 37%
設問14	普通	89 47%	240 43%
	良い	50 26%	197 36%
	大変良い	52 27%	115 21%
設問18	普通	87 45%	275 50%
	良い	60 31%	206 37%
	大変良い	45 23%	72 13%

8) 栄養士配置の有無別 (表11)

栄養士配置の有無別では、【子どもの心身の状態に応じて保育するために、子どもの健康状態ならびに発育及び発達状態について定期的、継続的に、また、必要に応じて随時把握している (設問1)】【保護者からの情報とともに、登所時及び保育中を通じて子どもの状態等を観察し、なんらかの疾病が疑われる状態や傷害が認められた場合には、保護者に連絡している (設問2)】【子どもの心身の状態等を観察し、不適切な養育の兆候を観察している (設問3)】【子どもの健康に関する保健計画に基づいて、そのねらいや内容を明確にしながら、一人一人の子どもの健康の保持及び増進に努めている (設問4)】【嘱託医による定期的な健康診断の結果を保護者に連絡し、保護者が子どもの状態を理解し、日常生活に活用できるようにしている (設問6)】【感染症やその他の疾病の発生予防に努めている (設問8)】【施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めている (設問9)】【子ども及び職員が手洗い等により清潔を保つようにするとともに、施設内外の保健的環境の維持及び向上に努めている (設問10)】【災害や事故の発生に備え、危険箇所の点検や避難訓練を実施するとともに外部からの不審者等の侵入防止のための措置や訓練など不測の事態に備えて必要な対応を図っている (設問12)】【乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに、その評価及び改善に努めている (設問14)】【自分自身の身体的・精神的な健康の保持・増進に努めている (設問17)】【保育内容「健康」について理解し、指導計画を立案・実践することができている (設問18)】【保護者が子どもの健康に関心をもてるような働きかけをしている (設問19)】の13項目は栄養士の配置がある方が「大変よい」と回答したものの割合が高かった。

表11. 栄養士の配置の有無別

		栄養士の配置あり	栄養士の配置無し
設問 1	普通	76 29%	131 28%
	良い	80 30%	203 44%
	大変良い	107 41%	127 28%
設問 2	普通	40 15%	64 14%
	良い	53 20%	132 29%
	大変良い	169 65%	263 57%
設問 3	普通	76 29%	146 32%
	良い	81 31%	178 39%
	大変良い	107 41%	136 30%
設問 4	普通	99 38%	200 44%
	良い	73 28%	159 35%
	大変良い	89 34%	97 21%
設問 6	普通	74 28%	136 30%
	良い	58 22%	156 35%
	大変良い	130 50%	159 35%
設問 8	普通	50 19%	106 23%
	良い	80 30%	183 40%
	大変良い	133 51%	171 37%
設問 9	普通	77 30%	168 37%
	良い	91 35%	170 37%
	大変良い	93 36%	117 26%
設問10	普通	42 16%	115 25%
	良い	91 35%	166 36%
	大変良い	130 49%	180 39%
設問12	普通	62 24%	149 33%
	良い	78 30%	161 35%
	大変良い	117 46%	145 32%
設問14	普通	107 41%	212 47%
	良い	74 28%	160 36%
	大変良い	80 31%	78 17%
設問17	普通	101 39%	216 48%
	良い	82 31%	146 32%
	大変良い	78 30%	92 20%
設問18	普通	114 44%	233 52%
	良い	90 35%	166 37%
	大変良い	56 22%	53 12%
設問19	普通	104 40%	211 46%
	良い	93 36%	177 39%
	大変良い	63 24%	67 15%

VI. 考察

以下、設問1～19の内容は要約し、“ ”で表現する

1. 保育士による「健康及び安全」への取り組み状況への認識の特徴と課題

本調査において、「健康及び安全」への取り組み状況への認識についてほとんどの保育士が「普通」あるいは「良い」「大変良い」と回答し、「悪い」「大変悪い」と認識している保育士は極少数であった。このことから保育士たちは保育所保育指針の「健康及び安全」について意識し、日々の保育に取り組んでいるのではないかとということがわかる。

保育士が「大変良い」と回答した取り組みのうち割合が高かったものは、“子どもの健康状態の把握と発病時の保護者への連絡(設問2、設問7)” “保育所における感染予防・保健環境などの維持向上(設問8、10)”に関する項目であった。子どもの健康状態が保育に大きく影響すること、そして感染予防に関しては、免疫学的に感染に脆弱な発達段階である乳幼児が集団生活するという特殊な保育の場における緊急性の高い取り組みであり、これらは従前から保育士たちが取り組んできている内容である。

一方、「大変良い」と回答した保育士の割合が低率であったのは、“保育内容「健康」について理解し、指導計画を立案・実践する” “保護者が子どもの健康に関心をもてるような働きかけをする” “子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように保育環境に配慮する” “食育の計画立案・評価・改善に努める” “自分自身の身体的・精神的な健康の保持・増進に努める” という内容であった。保護者との関わりにおいては、設問2や設問7のように子どもの体調に異常が見られたときの連絡は59.8%の保育士が「大変よい」と回答しており取り組みが良い一方、保護者が子どもの健康に関心を持てるような働きかけに関しては「大変よい」と回答した保育士は18.5%であった。深水らの研究⁴⁾においても、保護者への保健

情報の提供状況は、健康診断や身体測定結果の報告は9割以上と高値を示したが、健康相談会、健康教育は3割程度と低値を示していたとあるように、保育士は健康支援という視点からの保護者の養育力の向上に結びつく教育的関わりに力を入れて取り組んでいる状況まで至ってはいないことがうかがわれる。

今回の改定の特徴として、食育基本法の制定などを踏まえ、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、食育の推進が明記されている¹⁾。また、保育所における保護者への支援を保育士の業務として独立した章を設け新たに明記されていることや、保育の質を高める仕組みとして「保育課程」を踏まえた計画立案・実践の振り返りをし、自己評価をもとに課題を共通理解し、体系的・計画的な研修や職員の自己研鑽等を通じて職員の資質向上及び職員全体の専門性の向上を図ることが求められている¹⁾。

以上のことから、保育士たちは改定保育所保育指針第5章「健康及び安全」に対して改定前から行われていた健康への取り組みは大変良くできていると認識しているが、今回の改定の特徴である食育の推進や保護者支援、健康の保持増進に関する保育の計画及び評価など保育の質を高めるための取り組みについてはまだまだ課題として取り組んでいく必要があることが示唆された。今後、保育士を目指す学生の基礎教育においてもこれらの視点にたった「健康及び安全」に関するカリキュラムの充実がのぞまれる。

2. 保育士自身の健康管理の必要性

すぐれた保育を実施していくためには、保育にあたる者自身が心身の健康を保持し、増進していかなければならないといわれている⁵⁾。“自分自身の身体的・精神的な健康の保持・増進に努める”といった保育士自身の健康管理については、「大変良い」と回答した者の割合が低かった5項目のうちの一つであり、「忙しいので時間の余裕がない。」「忙しい。一人当たりの受け持ち人数が多かったり、行事などが多い。」「ストレスがたま

る。サービス残業が多い。」と自由記載欄に記載されていたように、職務が多忙であることなどから自身の健康管理に取り組みにくい状況にある保育士もいることが分かった。磯野ら³⁾の研究において、保育士のワークモチベーションは極めて高く、多くの保育士が日々の仕事に意欲的に取り組んでいるものの、メンタルヘルスは良好とはいえない結果が明らかになっている。日常生活の中で健康管理を自ら実施していく必要があると同時に、残業時間を減らすなどの労働条件の整備・改善、さらに職場の組織・人間関係が良好に保たれることがワークモチベーションやメンタルヘル스에強い影響力を持つ重要な要因であることが明らかになっている³⁾ことから、職場内の人間関係や組織風土を良好にする職場作りを進めていくことが重要であろう。

3. 専門職の配置が保育士の実践に与える影響

今回、「健康及び安全」への取り組み状況のうち4項目において看護師の配置がある保育園保育士の方が「大変良い」と回答したものの割合が有意に高かった。また、13項目で栄養士の配置がある保育園保育士の方が「大変良い」と回答したものの割合が有意に高かった。

先述した「大変良い」と回答した保育士の割合が低率であった「健康及び安全」への取り組み状況の上位5項目のうち4項目において、看護師あるいは栄養士、あるいは両方の専門職の関与がある保育園保育士の方が有意に「大変良い」と回答した保育士の割合が高かった。このことから、保育園において看護師、栄養士などの専門職の存在は、子どもや保護者への直接的支援にとどまらず、保育士の実践力を高め、保育の質を向上させる可能性が高いことがうかがわれる。筆者らの先行研究においても、看護師は、自分自身が保育士に関わっていくことにより、保育士の乳幼児への健康支援に対する意識や行動の変化を感じ取っていた²⁾。指導計画の立案・実践・評価というところでは、看護職は問題解決過程の思考に基づいた看護過程の展開を日々実践している⁶⁾ことや、保護

者への保健情報の提供は看護職の配置と嘱託医の活用により推進されており、保健安全委員会や年間活動計画も関連していたことが先行研究より明らかになっている⁴⁾。子どもの健康保持・増進のための健康計画の立案・実践・評価のできる専門職として、看護職に期待するところが大きい。今後、保育士の「健康及び安全」への取り組みの向上のためには、看護専門職を常駐させ、保育計画の中に指針に示された方策を積極的に取り入れる保育所内の実施体制作りを行うことが要望される。

Ⅶ. 結論

- ・保育士たちは日々の保育の中で、保育所保育指針第5章「健康及び安全」への取り組み状況がよいと認識している傾向にあった。
- ・看護師など保育士以外の専門職の存在が、保育士の実践力を高め、保育の質を向上させることが示唆された。
- ・「健康及び安全」の充実のためには看護専門職を常駐させ、保育所内の体制制作をすることや、保育士養成の基礎教育の中でのカリキュラムの充実を図ることが望まれる。

研究の限界

今回は、保育所保育指針が改定され実施から1年余りしか経過していない時点での調査であったこと、取り組みに関しては保育士自身の認識の自己評価であり、必ずしも取り組みの実情を反映しているものではないことが本研究の限界である。

なお、地域と回答項目間に有意の関連性がなかったことは、本研究で用いたデータからA県での課題を総合的に分析できる可能性を示している。

今後、アンケート内容の洗練化を行いながら、実施状況の詳細を把握できるような質問紙の作

成、改定後の取り組みの変化を知るために今後も継続して研究を進めていく必要がある。

本稿の一部は、第58回日本小児保健協会学術集会（平成23年9月2日名古屋市）において発表した。

また、本研究は平成22年度学長研究助成金によるものである。

謝辞

本研究を進めるにあたりご多忙の中、アンケート調査にご協力くださいました保育士の皆様、施設長の皆様に心よりお礼申し上げます。

引用文献(References)

- 1) 厚生労働省編, *保育所保育指針解説書*, 2008, 東京都, 株式会社フレーベル館
- 2) 矢野智恵, 片岡亜沙美, 山崎美恵子, 乳幼児の健康支援への保育所看護職者の「思い」に関する研究, *高知学園短期大学紀要*, 2010, 第40号, 33-43
- 3) 磯野富美子, 鈴木みゆき, 山崎喜比古, 保育所で働く保育士のワークモチベーションおよびメンタルヘルスとそれらの関連要因, *小児保健研究*, 2008, 67(2), 367-374
- 4) 深水京子, 荒木田美香子, 保育所における保護者への保健情報提供に関する要因の検討, *小児保健研究*, 2008, 67(5), 738-745
- 5) 巷野悟郎, 高橋悦二郎, *保育の中の保健: 幼稚園・保育所での保健指導の理論と実際*, 2008, 東京都, 萌文書林
- 6) 佐藤親可, 保育所の保健活動における看護職者の専門性の追求, *神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録*, 2007, 32, 231-238

Original Paper

The Study on the Recognition and Implementation of “Health and Safety” by Childcare Persons

Chie YANO^{1*}, Asami KATAOKA², Tetsuo MORISAWA³,
Kazuhisa OJIMA⁴, Toru SUGIHARA⁵ and Mieko YAMASAKI⁶

Abstract: This study was performed to elucidate the recognition of “Health and Safety,” a chapter in the Nursery School Childcare Guidance, and its implementation by the childcare persons after the revision of the Guidance. The survey was conducted using the stratified random sampling method on 1,763 childcare persons of 130 nursery schools in prefecture A (collection rate:46.2%).

The result revealed that the childcare persons tended to recognize that actions for “Health and Safety” were taken. They have been confident with their routine procedures that were performed since before the revision, such as “understanding the health condition of the child and reporting to his/her guardian when s/he develops illness,” and “infection prevention and maintaining better health environment in nursery schools.” On the other hand, there is still the need for quality childcare, which were newly included in the Guidance in this revision, such as food education, support for families and nursery school plans for health promotion and its evaluation. The result also suggested that employing specialists such as nurses and dieticians will lead to the better quality of care in nursery schools.

Employing full-time specialists such as nurses and working with “Health and Safety” systematically in each nursery school may contribute to better childcare in the future.

Key words: childcare person, nursery school childcare guidance, health and safety, specialist

^{1*} Kochi Gakuen College, Department of Nursing, Email: cyano@kochi-gc.ac.jp

^{2,4,6} Kochi Gakuen College, Advanced Course in Community Health Nursing,

Email: akataoka@kochi-gc.ac.jp, ojima@kochi-gc.ac.jp, myamasaki@kochi-gc.ac.jp

³ Kochi Gakuen College, Advanced Course in Community Health Nursing

⁵ Kochi Gakuen College, Former Department of Early Childhood Education and Care